

パーソナルコンピュータシステムの紹介

総合情報処理センター
花田 英輔

センターでは、新システムのパーソナルコンピュータとして FMR-60HE2 を 100 台 (うち、センター内 90 台、図書館本館 6 台、工学部 1 号館 4 台) 設置した。

ここでは、これらのパーソナルコンピュータ (以下、FMR と略す。) の利用方法について説明する。

1 ハードウェア

今回設置した FMR は、CPU として $i386SX^{TM}$ (20MHz) を搭載している。また、フロッピーディスクドライブ (FDD) を 2 台装備し、かつ 40MB のハードディスクを内蔵している。主記憶容量は 5MB に拡張されている。

FDD は 3.5 インチ対応となっているが、一部に 5 インチ対応の FDD を備えているものも用意している。

フロッピーディスクドライブは、上が A ドライブ、下が B ドライブとなっている。また、内蔵ハードディスクのうち一部をユーザの一時的使用のために C ドライブとして開放している。

2 メニューについて

原則的に、FMR の利用は画面に現れるメニューからの選択によって行う。

メニューの構造は表 1 の通り。

なお、一部の FMR では、「5. MS-DOS の利用」のサブメニューに「OASYS の利用」と、「Lotus 1-2-3 の利用」が含まれているものがある。(ソフトウェアを利用できる端末に限られる。)

以下、画面例と共に利用方法を詳しく述べる。

3 画面例による利用方法詳細

3.1 メインメニュー

電源を入れると、画面 1 の様な画面が表示される。(なお、実際の画面はカラー表示である。)

表 1: FMR のメニュー構造

メインメニュー	サブメニュー
1.MSP への接続	
2.UXP への接続	
3.ワークステーションへの接続	
4.X ウィンドウの利用	
5.MS-DOS の利用	1.Vz-editor の利用
	2.Quick-BASIC の利用
	3.FMR とホスト間のファイル転送
	4.MS-DOS の利用
	5. メインメニューへ戻る
	6. 電源 OFF
6. 利用終了	

*****	長崎大学 総合情報処理センター	*****
*	Nagasaki Univ. Information Science Center	*
*		*
*	∞∞∞ センター利用メニュー ∞∞∞	*
*		*
*	1. MSPモード(大型計算機TSS利用)	*
*		*
*	2. UXPモード(大型計算機UNIX利用)	*
*		*
*	3. ワークステーション利用	*
*		*
*	4. X-Wind ow利用	*
*		*
*	5. パソコン(MS-DOS)利用	*
*		*
*	6. 終 了	*
*		*
*		*
*	メニュー番号を入力し、実行キーを押して下さい。=>	*
*		*
*	日付：1993年 2月13日 開始時刻：16時45分	*
*		*

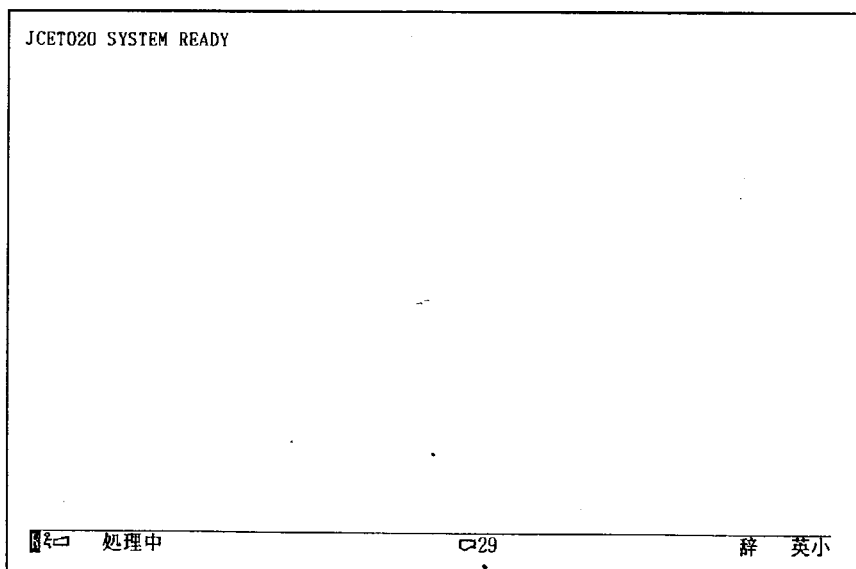
		辞 英小

画面 1 メインメニュー

画面上の>の直後に選択したい機能の番号を入力し、実行キーを押す。すると、一旦画面が消え、それぞれの機能を開始するための準備を始める。

3.2 MSP の利用

メインメニューで「1.MSP モード」を選択すると、画面 2 の様な画面となる。(実際の画面は黒地に緑の文字)



画面 2 MSP 接続画面

この状態で

LOGON TSS Fxxxx

(Fxxxx は利用者番号) と入力して実行キーを押すと、パスワードを聞いてくる。正しいパスワードを入力して実行キーを押すことにより、MSP へ接続される。

○間違って選択したら

間違って選択した場合は、CTRL キーと SHIFT キーを押しながら w を押すとメインメニューに戻る。

3.3 UXP の利用

メインメニューで「2. UXP モード」を選択すると、画面 3 の様な画面となる。(実際の画面は黒地に白の文字)

```
コネクト中...
uxp にコネクトしました。
エスケープ文字の設定は '^)' です。

UXP/M TELNET (uxp)

login:

辞 英小
```

画面 3 UXP 接続画面

この状態で、login:の直後に

fxxxx

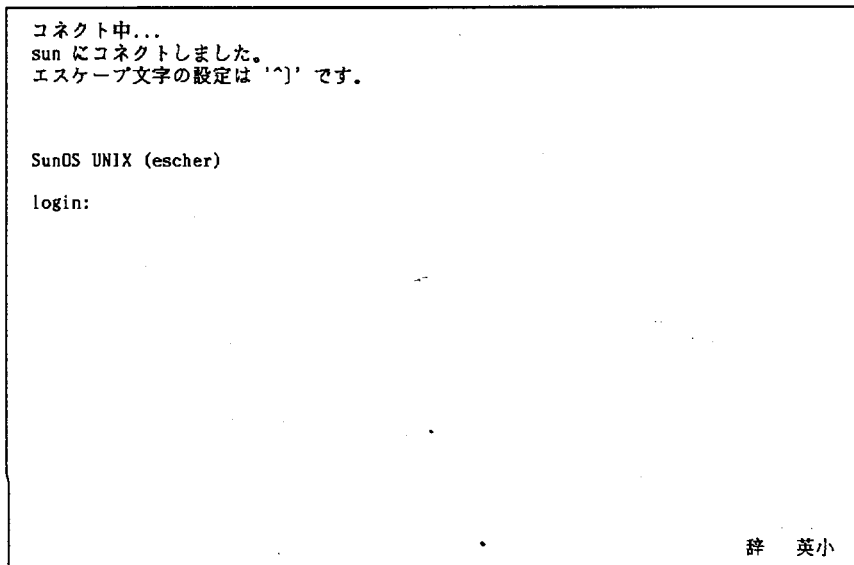
(fxxxx は利用者番号) と入力して実行キーを押すと、パスワードを聞いてくる。正しいパスワードを入力して実行キーを押すことにより、UXP へ接続される。

○間違って選択したら

間違って選択した場合は、CTRL キーを押しながら d を押すとメインメニューに戻る。

3.4 ワークステーションの利用

メインメニューで「3. ワークステーション利用」を選択すると、画面4の様な画面となる。(実際の画面は黒地に白の文字)



画面4 ワークステーション接続画面

この状態で、login:の直後に

fxxxx

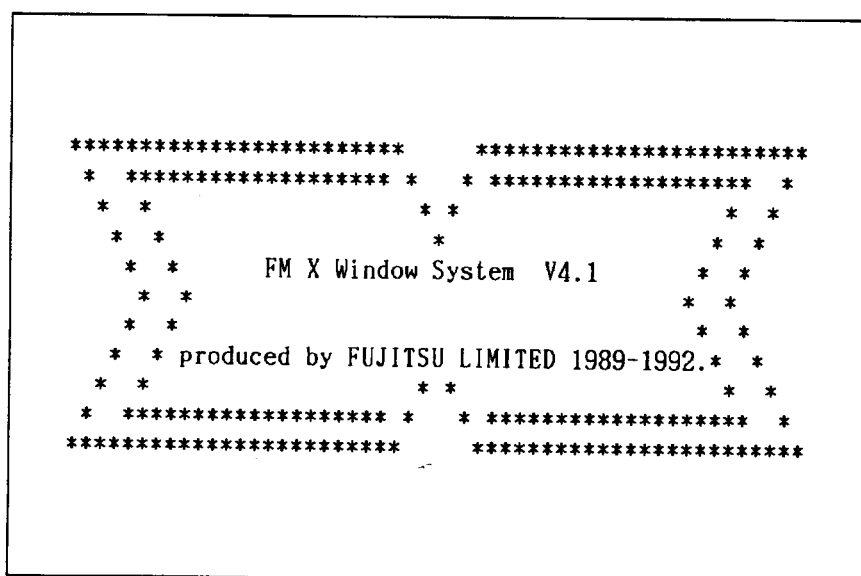
(fxxxx は利用者番号) と入力して実行キーを押すと、パスワードを聞いてくる。正しいパスワードを入力することにより、画面上の () 内に示されているワークステーションに接続される。

○間違って選択したら

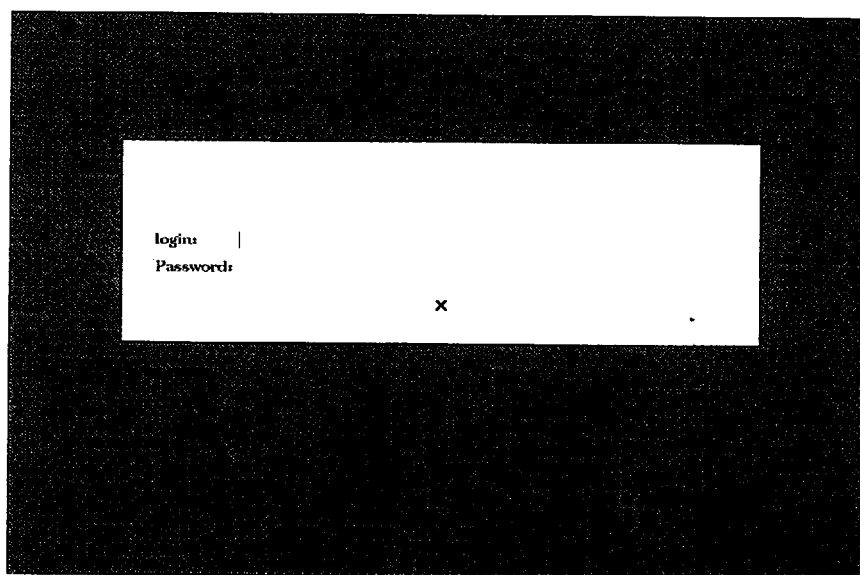
間違って選択した場合は、CTRL キーを押しながら d を押すとメインメニューに戻る。

3.5 X ウィンドウの利用

メインメニューで「4.X-Window の利用」を選択すると、一旦画面5の様な画面となり、しばらくすると画面6のような画面となる。(画面5は、実際は黒地に白の文字、画面6はカラー表示)



画面 5 X-Window 準備画面



画面 6 X-Window 開始画面

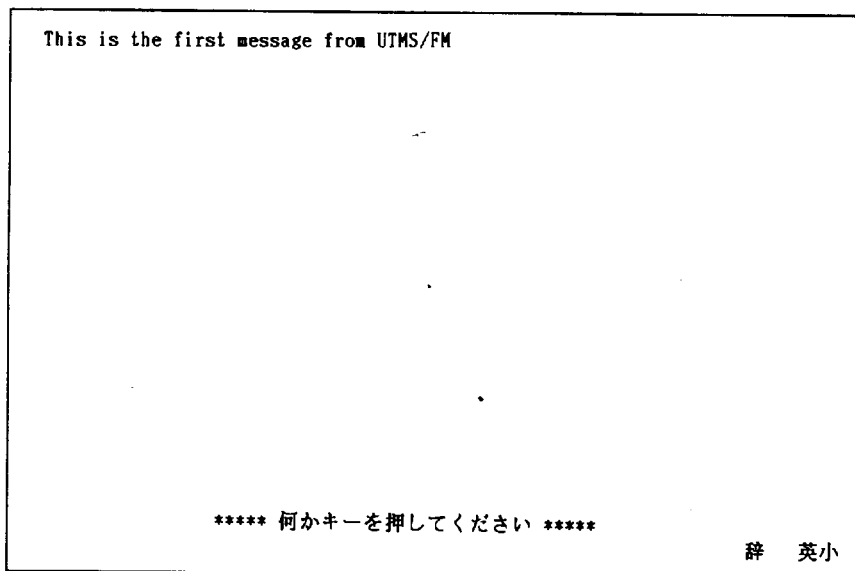
この状態で、login:の直後に fxxxx(fxxxx は利用者番号)、Password:の直後にワークステーション用のパスワードを入力することにより、画面上の () 内に表示されているワークステーションに X ウィンドウを利用して接続される。

○間違って選択したら

間違って選択した場合は、PAUSE キーを押すと確認を求めてくるので、y を押して実行キーを押すとメインメニューに戻る。

3.6 MS-DOS の利用

メインメニューで「5. パソコン (MS-DOS) 利用」を選択すると、しばらく準備の後、画面 7 のような画面となる。



画面 7 資格検査初期画面

これは、資格検査を行う準備ができたことを示しているので、何かキーを押すと入力画面 (画面 8) が表示される。

★ 入 力 し て く だ さ い ★

1. ユーザ 名 : f0004_

2. パスワード : #####_

確認してください。(Y/N) :

辞 英小

画面 8 資格検査画面

ここでは、ユーザ名には利用者番号を、パスワードには UXP、ワークステーションでのパスワードを入力する。入力後、確認を求める表示がなされるので、y を押して確認する。利用資格チェックにパスすると、画面 9 の様なサブメニューが表示される。

MS-DOSメニュー

1. VZ-エディタの利用
2. Q u i c k-B A S I C
3. ファイル転送
4. MS-DOSの利用
5. センター利用メニューに戻る
6. 電源切断 (P O F F)

メニュー番号を入力し、実行キーを押して下さい。=>

日付：1993年 2月13日 開始時刻：16時57分

辞 英小

画面 9 サブメニュー画面

ここで、さらに利用したいアプリケーションや機能を番号で選択する。

3.6.1 Vz エディター

サブメニュー画面で1を選択するとVzエディターが起動され、エディット対象のファイル名を聞いてくる。これ以降の利用方法については、端末室備え付けのマニュアルを参照されたい。

3.6.2 Quick-BASIC

サブメニュー画面で2を選択するとQuick-BASICが起動される。Quick-BASICでは、操作はマウスを使って行う。Quick-BASICの利用方法について詳しくは、端末室備え付けのマニュアルを参照されたい。

3.6.3 ファイル転送

これは、FMR上のファイルをMSPやUXP、ワークステーション上へ転送したり、またその逆を行うものである。なお、MSPに対して転送する時のみは、あらかじめMSP上に受け入れ用のファイルを作成しておく必要がある。

OASYS文書フロッピー上のファイルは転送できない。

サブメニュー画面で3を選択するとファイル転送画面(画面10)となる。

```
*****
* 1. ftp> の後に、open #机名 を入力してください。 *
* * * * *
* 例)  M S P の場合 ==>  open msp *
*      U X P の場合 ==>  open uxp *
*      S U N の場合 ==>  open sun *
* * * * *
* 2. 終了する時は、ftp> の後に "bye" 又は "quit" を *
*    入力してください。 *
* * * * *
*****
FTP V1.1 L20
Copyright (c) 1990 ASCII Corporation
COPYRIGHT (c) FUJITSU LIMITED 1991,1992
ftp>
```

辞 英小

画面 10 ファイル転送画面

画面上のftp>の直後に転送の相手を指定してopenする。

(例) ワークステーションに対して転送したいとき

```
ftp> open sun
```

すると、ログイン名を聞いてくるので、それぞれのシステムにおける利用者番号を入力する。するとパスワードを聞いてくる。

パスワードまで正しく入力されると、再び ftp> というプロンプトになる。終了するときには by、bye または quit と入力するとサブメニュー画面に戻る。

FMR → ホスト転送 FMR からホスト上へファイルを転送したいときは、

```
put a:xxxx.xxx yyyy
```

と入力すると、上の方の A ドライブに入れてあるフロッピーディスクから、xxxx.xxx というファイルをシステムに対して転送する。システム上では yyyy という名前のファイルになる。

(注意) 転送された日本語のファイルは漢字コードが SJIS なので、UXP、ワークステーション上で正しく読めない。転送後は必ず UXP、ワークステーション上で

```
dos2unixtxt yyyy > zzzz
```

というコマンドを実行する必要がある。(このコマンドにより、ファイル名 zzzz というファイルが作られ、元の yyyy というファイルは残る。)

ホスト → FMR 転送 一方、ホスト上のファイルを FMR へ転送したい場合は、

```
get yyyy a:xxxx.xxx
```

と入力すると、システム上の yyyy というファイルが FMR の上の方の A ドライブに入れてあるフロッピーディスクへ転送され、xxxx.xxx という名前のファイルになる。なお、フロッピーディスクは 3.5 インチの MS-DOS フォーマットであれば、2DD であっても 2HD であってもかまわない。

(注意) UXP、ワークステーション上の日本語のファイルは漢字コードが EUC なので、FMR 上で正しく読めない。転送前に必ず UXP、ワークステーション上で

```
unix2dostxt zzzz > yyyy
```

というコマンドを実行する必要がある。(このコマンドにより、ファイル名 yyyy というファイルが作られ、元の zzzz というファイルは残る。)

3.6.4 MS-DOS の利用

サブメニュー画面で4を選択すると、一般的な MS-DOS の利用となる。

プロンプト (C:¥>) の後に DOS コマンドを入力する。

C ドライブはハードディスク上であり、利用者が作業用のファイルを置くことができる。しかし他の利用者によって削除される可能性があるので必要なファイルは必ずフロッピーディスクなどに保存し、使用終了後は DEL コマンドでできたファイルを消去してから FMR の使用を終してほしい。

コマンド例 (C ドライブ上の全ファイルを消去する場合)

```
C:¥> DEL C:*.*
```

プロンプトが表示されている状態からサブメニューへ戻るには、EXIT コマンドを入力する。

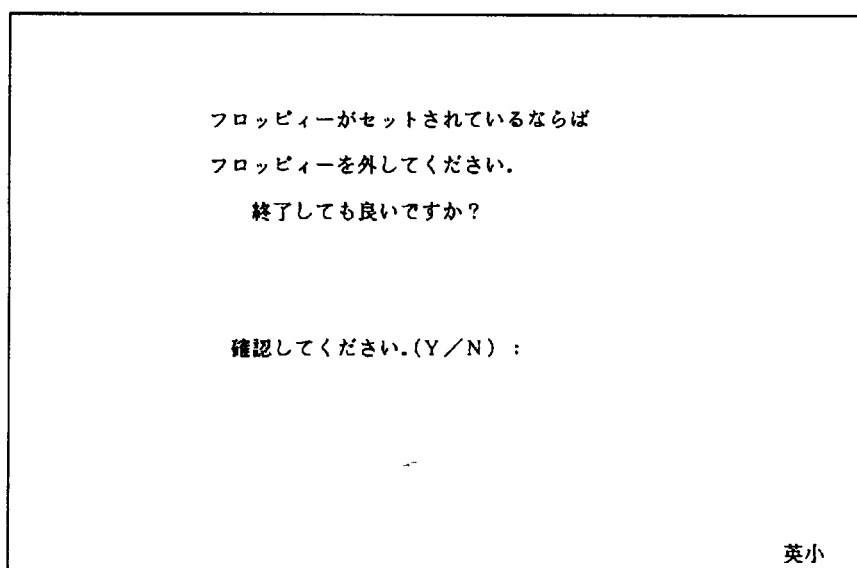
3.6.5 メインメニューへ戻る、使用終了

サブメニュー画面で5を選択するとメインメニューへ戻る。

また、6を選択するとメインメニューへ戻ることなく電源切断画面 (画面 11) が表示される。

3.7 使用終了

メインメニューで6を選択すると、電源切断画面 (画面 11) が表示される。



画面 11 電源切断画面

フロッピーの抜き忘れがないか確認した後、y と入力すると、自動的に電源が切られる。FMR の回り、プリンターの上などに忘れ物がないかを確認して退室してください。その際、プリンターから出力された不要な用紙等のごみは、持ち帰ってください。端末室は常にきれいになるようにしてください。

4 その他

- 画面のハードコピーをとりたい時

画面のハードコピーはキーボード左上の COPY キーを押すことでとれる。ただし、事前に最寄りのプリンターの電源 (スイッチは左の横面) と、デバイス選択装置 (略称「でぶ」) の電源を入れておくこと。

なお、Quick-BASIC を利用している途中での実行画面のハードコピーはとれない。

- FMR 用プリンタについて

FMR 用のプリンタはページプリンタである。従って、1 ページが終了するか、改ページコマンドが来るまでは紙が排出されない。

また、コントロールパネル上の「オンライン」と書かれたボタンの上のランプがついていないとデータを処理しない。(押せばついたり消えたりする。)

このランプが点滅している間はデータ処理中なので、手を触れないこと。

点灯したままになったらデータ処理終了である。改ページがない場合、画面のハードコピーなどの場合は、一旦「オンライン」ボタンを押してランプを消し、「改ページ」ボタンを押すと、プリンタ内に残っていたデータが印刷されて出てくる。